

---

# 死ななければならない

鶴坂凜蘭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死ななければならぬ

### 【Nコード】

N7296L

### 【作者名】

鶴坂凜蘭

### 【あらすじ】

大切な家族を守るため、がむしやりに働き続けてきた「俺」が患った病。

それは、「鬱病」と言う名の正体の見えない病だった。

「俺」は、闘病生活の中である思いに捕らわれる。

それは、「死ななければならぬ」という思い。

家族を捨て、世間を捨て、ただその思いだけに突き動かされながら

家を出た「俺」の闘病記録。

## 波瀾（前書き）

現代病といわれる病「うつ病」

この作品は、実際にうつ病と闘っている父親が描く闘病記です。

## 波濤

水平線が、辛うじて薄暗い空の果てに見える。

眼下には、遙か彼方から押し寄せてくる波が岸壁を削りながら波濤と化している。

夕闇は曇り空のせいであだの暗闇となり、先ほどから小雨が頬を打つ。

もう、半日以上こうして岩場に座り込んでいる。

Tシャツに薄手のジャケット、Gパンという出で立ちでは、さすがに少し寒い。

当ても無く、家を出てから3日。

ようやく辿り着いた場所が、本州の最北端のこの場所だった。

幸い、有名な観光地からは少し離れていて人気は無い。

吹きすさぶ風の音と、波の音。

時折姿を見せる名前のわからない鳥の鳴き声だけが、俺を取り囲んでいる。

寂しい場所だ。

寂しいゆえに、生きている事を感じてしまう場所だ。

今の俺に相応しいのか相応しくないのか……。

携帯の電源は昨日充電が切れたままだ。

特に誰からも着信が無いまま、充電は切れた。

今はもう、世間と俺を繋ぐものは何一つ無い。

ここに何をしに来たのか。

この場所に来るまで漠然としていた思いが、ようやく少しずつわかり始めてきた。

偶然にも辿り着いたこの場所は、俺が家を出た理由にとっても相応しい気がしてきた。

俺は。

そう、俺は。

『死ななければならぬ』

## 宣告

「うつ病ですね」

狭い診察室で、女性の医者は柔らかい声でゆっくりとそう告げた。

真夏の午後。

診察室には、先程まで俺の面談をしていたソーシャルワーカーと、  
医者3人しかいない。

蝉の鳴き声が、五月蠅い。

俺は、上手く声が出せずに、ひどく擦れた声で医者に聞き返した。

「うつ病……ですか？なぜ？」

医者は、噛んで含めるようにさらに柔らかい声音でひとつひとつ症  
状を読み上げる。

「ご専門の分野でしょうから、あまり詳細には説明は必要ないと思  
います」

医者の声が遠のく。

最近、あまり眠れていないのと、物忘れが多い事から産業医の検診  
を受けたのが2ヶ月前。

その場で、この精神科を紹介された。

しかし、多忙のあまり3ヶ月以上もまとまな休みが取れていない中で、平日に通院するのは不可能だったせいもあり、放っておいた。ただの疲労だと思っていた。

仕事柄、家に帰って寝ていても、問題が発生すれば深夜や明け方に容赦なく叩き起こされる。

そのうち、眠りが浅くなる。

妻や子供の寝顔を横目に、布団の中で携帯を使うような日々が続いていた。

会社に行けば、朝から夜遅くまで書類や現場対応に追われ、あわせて打ち合わせや会議や面接などもあり、多忙と言う言葉がとても似合う毎日だ。

この歳になれば、それなりの責任があるのは当たり前だし、数字は右肩上がりなのだから、休めないのも当然だろうと感じていた。

しかし、眠れない。

そして、小さなミスが増え始め、やがて、大きなミスへと変わっていった。

昨日会った人物を覚えていない。

車のルートが覚えられない。

申請書類を忘れ、上司への報告を忘れ、クレーム処理を誤る。

当然、下からも上からも責められる。

ますます眠れなくなり、食事が喉を通らなくなる。

産業医から上司に相談があり、今日、こうして精神科という重いドアを開けた。

ソーシャルワーカーとの面談中、話しながらなぜだか涙が止まらな  
い。

感情失禁という症状だ。

それは、わかる。

しかし、極度の疲労や、精神不安でも見られる症状だ。

別にうつ病だからそうなるわけじゃない。

医者の方が、急に近くに聞こえる。

強く名前を呼ばれて、慌てて返事をしたが、何を話されたのか理解  
ができない。

「すみませんが、ご家族と一緒にもう一度説明を受けて貰えますか  
？」

家族？

妻……ということか……。

生返事をして、俺は診察室を出た。

待合室の堅いソファに腰を下ろす。

ソーシャルワーカーが、妻の携帯の番号を聞きだし、事務室へ消えた。

妻は、どんな顔をするだろうか……。

俺は、そのことばかりが気になってしまっ。

うつ病。

言葉はよく聞くが、俺が詳しいのは高齢者の認知症状に伴う、うつ症状だ。

中年男性のうつ病など、わけがわからない。

頭の中が、妻の顔と娘の顔でいっぱいになった。

続いて、上司や同僚や部下の顔が浮かぶ。

「どっしりどっしり……」

宣告された病名に対する感想は、ただこれだけだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7296/>

---

死ななければならない

2010年10月11日05時50分発行